

## 八ヶ岳・赤岳主稜

— 新雪に輝く岩稜 —  
(2010年4月の記録)

安齋恭一

日程：2010年4月17日～4月19日

参加者：L 秋田 誠、山田英夫、安齋恭一

4月17日(土) 快晴

美濃戸口 12:50 — 美濃戸 14:00 — 赤岳鉱泉 17:00

前々日から4月とは思えない低温で、山岳地帯はかなりの降雪があった。ライブカメラの定点観察でも黒い地肌が消え、白一色となっていた。考えあぐねた末スタッドレスに履き替えたので、入間市駅集合にやや遅れる。圏央道の路肩に雪がある。それでも11:00諏訪南IC着。IC出口の駐車場で秋田さんと合流、車1台で出発。「あぐりモールふじみ」で食料の買出しをする。粗食で軽量快適にと打ち合わせたが、いつものようにそれなりに重くなった。

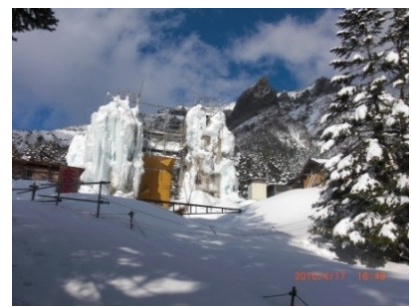
美濃戸口まで路面に雪はなく、唯一駐車場の数メートルのみスタッドレスが役立った。駐車場脇で乾杯し昼食を済ませて出発。美濃戸までは雪混じりの道であったが、美濃戸を過ぎるともはや白一色、針葉樹の葉に積もった雪も落ちずに留まっており、しかも真冬のように純白。日射しだけが春であることを告げるかのように力強く、景色は眩しく美しかった。連休前のためか人は少なく美濃戸口にも美濃戸にも車は10台程度であったが、トレースはしっかりついており、夏よりも歩きやすい。



美濃戸口



美濃戸



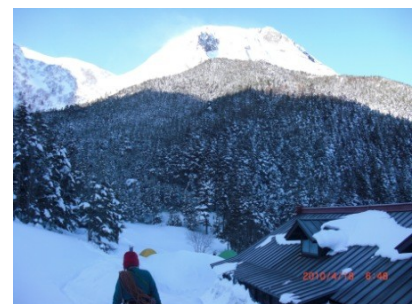
アイスキャンディー

夕暮れ時の赤岳鉱泉は、季節はずれの観光地のような空気で、アイスキャンディーは残骸と化し、周囲に立ち入り禁止の柵がめぐらされ、テントも数張り程度で活気がなかった。しかし、満点の星空の下、テントに入れればいつもの楽しい時間が待っており、酔いが回り四方山話にくたびれ頃就寝した。

4月18日(日) 晴

赤岳鉱泉 6:00 — 行者小屋 6:50 — 文三郎道トラバース点 8:20 — 登攀開始 10:00 — 稜線 14:50 — 行者小屋 16:20 — 赤岳鉱泉 17:00 — 美濃戸口

昨夜の約束どおり4時起床と奇跡的な段取りで6時に出発。行者小屋のテントは5張り程度で、人の気配なし。鉱泉からの団体が追いついてきたが、一足先に出発する。トレースは文三郎道に向かう1本のみで、途中分岐もなかった。行く手上部に人影が認められる。鉄階段はまだ雪の下であった。取り付きが核心の



行者小屋から阿弥陀岳



取り付へのトラバース

我々は、不安に駆られながらトラバース点を目指す。案の定、想定よりさらに上で、すでに3人組みが2パーティー取り付き始めたところであった。稜上待機は風が冷たくつらい。2パーティー目のしんがりが準備を始めた頃トラバースを開始、トレースがあるのでさほど危険を感じず、ノーザイルで基部に。ここでしばらく待機するが、春用の中敷を外したためか足裏が冷たく、2月となんら変わらない感覚であった。春山の暑さ対策を考えてきたので、待機中寒いのは仕方がない。しかし、飲み物が凍ることはなかった。10:00登攀開始、1P目難しくないチョックストーンを乗り越え、やや不安定な凹角を数歩上りリッジに出て右に少しあがってビレー。2P目、左に数メートルの岩を越してリッジにザイルを伸ばしペツルでビレー。3P目、すぐ上にもペツルがあったことを確認した。ザイルを目いっぱい伸ばしたところ、中間の岩場の最上部に数メートル足らず、岩角を使って凹

角の中でビレーするが、前ピッチで上のビレー点まで伸ばしておけば、岩場を抜けたところで楽にビレーできた。ピッチの切り方を反省。4P目、ピッチのズレを修正すべく岩場を越して早めにビレー。5P、リッジ上を目いっぱい登り岩角でビレー。6P、出口が凹角上の立った岩場を抜けてビレー。ここが今回のルートでは一番面白かった。7P、リッジを登り左斜面の這い松を掘り起こしてビレー。8P目安定したスタンスのある岩角でビレー。すぐ上に登山者の姿がある。ここが終了点。念のため登山道に出たところでスタンディング・アックスビレーを行い終了。



稜線にて阿弥陀岳を背に

この日の訪問者は3人パーティー3組と、途中で追い越していった単独行者1名の計10名であった。(ピッチはよく覚えていないので勘違いを含んでいる) 稜線でザイルなどを整理し、赤岳には向かわず、急な斜面を下り展望荘で一息入れた後、地蔵尾根を下る。はじめはかなり急で5メートルほどが両側がすっぱり切れ落ちたナイフリッジもあり緊張するが、すぐに夏道の鎖や階段の手すりが出てくる。なおも数箇所緊張させられるが、雪のおかげか歩きやすく、飽きの来ないうちに行者小屋に到着する。朝のテントは撤収されており人はいない。中山峠を越え赤岳鉱泉に戻ってみても、同じように静まり返っている。明日までの予定であったがこのままテントを撤収して下ることにする。真冬と違い17:00なのにまだ明るい。一時間も歩くと雪が薄くなり、入山時に気がつかなかった木道や岩が現れて歩きにくくなる。アイゼンを外しヘッドンを出し黙々と下る。美濃戸には数台の車が残っていたが、すっかり雪が解けた美濃戸口の駐車場には、私たちの車が1台残っているだけだった。



チャレンジアルパインクライミング (廣川健太郎) より引用